



3 ソフトウェア 編

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

- 添付のCD-ROMについて(→168ページ) 本装置に添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに収められているソフトウェアについて紹介します。
- EXPRESSBUILDER(→169ページ) セットアップツール「EXPRESSBUILDER」について説明します。
- Express本体用バンドルソフトウェア(→178ページ) CPUブレードに接続されたハードディスクドライブにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。
- 管理PC用バンドルソフトウェア(→186ページ) システムを監視・管理するための管理PCにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。
- ディスクアレイソフトウェア(→190ページ) オプションのディスクアレイコントローラを管理するためのソフトウェアについて紹介します。

添付のCD-ROMについて

添付の「EXPRESSBUILDER®」CD-ROMには、本装置を容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、本装置の機能をより多く引き出すことができます。



「EXPRESSBUILDER」CD-ROMは、本装置の設定が完了した後も、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。

セットアップユーティリティ

EXPRESSBUILDER* (169ページ)

ディスクアレイ管理ユーティリティ

Adaptec Storage Manager™ (178ページ)

システム管理ユーティリティ

- ESMPRO/ServerAgent (180ページ)
- エクスプレス通報サービス (184ページ)
- DianaScope (189ページ)
- システム診断ユーティリティ (195ページ)
- オフライン保守ユーティリティ (229ページ)
- システムマネージメント (231ページ)

その他

各種オンラインドキュメント
(HTML/PDF)

ディスクアレイ管理ユーティリティ

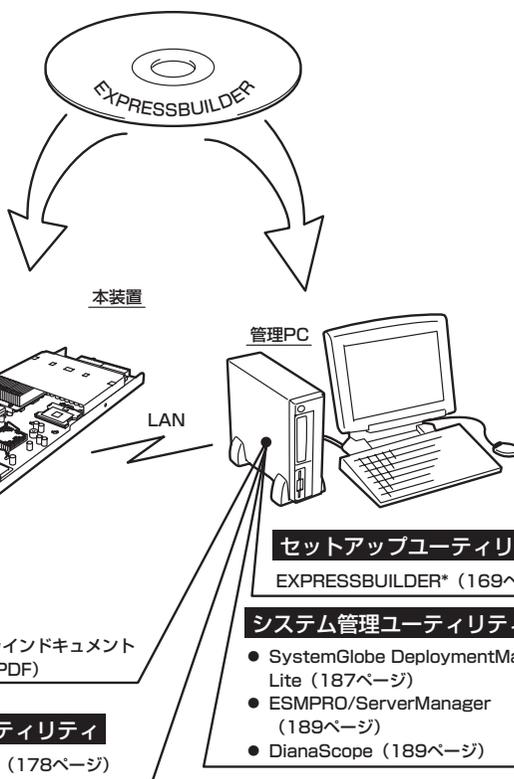
Adaptec Storage Manager™ (178ページ)

セットアップユーティリティ

EXPRESSBUILDER* (169ページ)

システム管理ユーティリティ

- SystemGlobe DeploymentManager Lite (187ページ)
- ESMPRO/ServerManager (189ページ)
- DianaScope (189ページ)



* コンソールレスで操作する場合。COMポートも使用可能。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、保守用の各ユーティリティをメニュー形式で実行する統合ソフトウェアです。

起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには3つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

● 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動する

起動時のリモート、ローカルの切り替え画面で、Lキーを押して起動させる方法です。この方法で本装置を起動すると「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目から本装置をセットアップします。



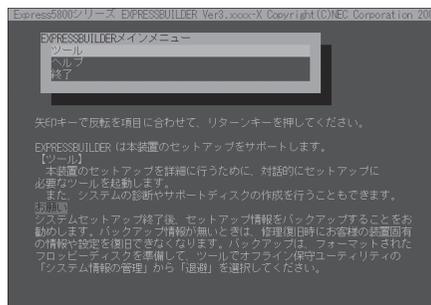
本装置以外のコンピュータおよび「EXPRESSBUILDER」CD-ROMが添付されていた本装置以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

● コンソールレスで「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからブート(起動)する

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをブレード収納ユニット前面のUSBコネクタに接続したCD-ROMドライブから起動すると、LANかCOM(シリアルポート)で接続している管理用コンピュータ(PC)の画面には、「メインメニュー」が表示されます。

管理PCからこのメニューにある項目を使って本装置を遠隔操作をします。



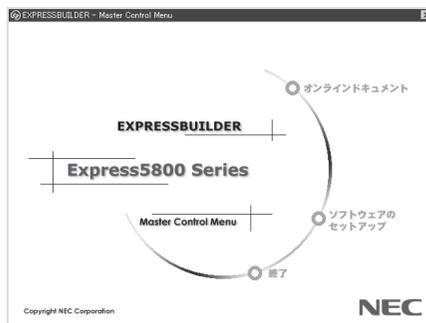
- 本装置以外のコンピュータおよび「EXPRESSBUILDER」CD-ROMが添付されていた本装置以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。
- コンソールレス時の使用は、本体にキーボードが接続されていないことが条件です。本体にキーボードが接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、以下の動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。

EXPRESSBUILDERメインメニューについてはこの後の「コンソールレスメニュー」を参照してください。

- Windowsが起動した後に「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする

Windows (Windows 95以降、またはWindows NT 4.0以降)が起動した後に、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットするとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。



EXPRESSBUILDER トップメニュー

EXPRESSBUILDER トップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS (オペレーティングシステム) のセットアップとインストールをするときに使用します。



BIOSの設定を間違えると、CD-ROMから起動しない場合があります。
EXPRESSBUILDERを起動できない場合は、BIOS SETUPユーティリティを起動して以下のとおりに設定してください。

「Boot」メニューで「CD-ROM Drive」を1番上に、「Removable Devices」を2番目に設定する。

起 動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDER トップメニューを起動します。

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。
2. 本装置に接続しているCD-ROMドライブへ「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONして本装置を再起動する。
4. 起動時にリモート、ローカルの切り替え画面で、Lキーを押す。
CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDER トップメニューが現れます。

ツール
EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別に起動し、オペレータによるセットアップを行います。また、インストール済みOSに影響を与えることなくセットアップを行うことができます。

ヘルプ
EXPRESSBUILDERについて説明します。セットアップを実行する前に一通り目を通しておくことをお勧めします。

終了
EXPRESSBUILDERの終了画面が表示されます。

Express800シリーズ EXPRESSBUILDER Ver.8. xxxxx-1 Copyright (C) NEC Corporation 2005

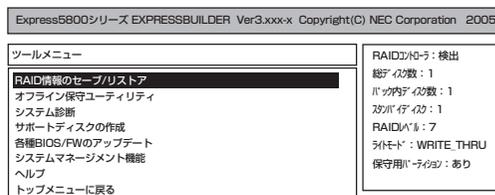
セットアップ終了後、セットアップ情報をバックアップすることをお勧めします。バックアップ情報が無いときは、処理(回復)時に必要な装置固有の情報や設定が復旧できなくなります。バックアップは、空きフロッピーディスクを1枚準備して、ツールでオンライン保守ユーティリティの「システム情報の管理」から「読込」を選択してください。

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別に起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセッティングを行います。

また、システム診断やサポートディスクの作成を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。



● RAID情報のセーブ/リストア

このメニューは本体装置のHostRAID機能が有効(Enabled)に設定されている場合、またはLSI-Logicディスクアレイコントローラが接続されている場合に表示されます。ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存(セーブ)、またはフロッピーディスクから復元(リストア)することができます。

なお、HostRAID機能が有効になっている場合は、HostRAIDのコンフィグレーション情報を保存または復元します。HostRAID機能が無効になっており、かつLSI-Logicディスクアレイコントローラが接続されている場合には、LSI-Logicディスクアレイコントローラのコンフィグレーション情報を保存または復元します。



HostRAID機能が有効に設定されている状態で、LSI-Logicディスクアレイコントローラのコンフィグレーション情報をセーブまたはリストアするには「Power Console Plusユーザーズマニュアル」を参照してください。

ー RAID情報のセーブ

ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存します。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意してください。RAIDの設定や変更を行った時は、必ず本機能を使用してコンフィグレーション情報を保存してください。

ー RAID情報のリストア

フロッピーディスクに保存されたコンフィグレーション情報をディスクアレイシステム上に復元します。「RAID情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。コンフィグレーション情報が万一破壊された場合や、誤ってコンフィグレーション情報を変更してしまった場合は、本機能を使用してコンフィグレーション情報を復元してください。



この機能は保守用です。保守以外の目的で操作しないようお願いいたします。誤った操作を行うとデータが損失するおそれがあります。

● オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユーティリティです。詳細は229ページまたはオンラインヘルプを参照してください。

● システム診断

本体装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体装置に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。195ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

● サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要なサポートディスクを作成します。なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

- － Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER
Windows Server 2003 x64 Editions をインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します。
- － Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER
Windows Server 2003 をインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します。
- － Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER
Windows 2000 ServerをインストールするときやWindows 2000 Serverの修復をするときに必要となるサポートディスクを作成します。
- － ROM-DOS起動ディスク
ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。
- － オフライン保守ユーティリティ
オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。
- － システムマネージメント機能
BMC(Baseboard Management Controller)による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行うプログラムの起動用サポートディスクを作成します。

● 各種BIOS/FWのアップデート

NEC 8番街で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、本装置のBIOS/FW(ファームウェア)をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『NEC 8番街』: <http://nec8.com/>

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindows NTのメモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

- **システムマネジメント機能**

BMC (Baseboard Management Controller)による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

- **ヘルプ**

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

- **トップメニューに戻る**

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

コンソールレスメニュー

EXPRESSBUILDERは、本装置にキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種セットアップを管理用コンピュータ(管理PC)から遠隔操作することができる「コンソールレス」機能を持っています。



- 本装置以外のコンピュータおよび「EXPRESSBUILDER」CD-ROMが添付されていた本装置以外のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。
- コンソールレス時の使用は、本体にキーボードが接続されていないことが条件です。本体にキーボードが接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、コンソールレス動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。

起動方法

起動方法には管理PCと本体の接続状態により、次の2つの方法があります。

- LAN接続された管理PCから実行する
- ダイレクト接続(シリアルポートB)された管理PCから実行する

起動方法の手順については、DianaScopeオンラインドキュメントを参照してください。



- BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。CD-ROMドライブが最初に起動するようになっていないと使用できません。
- LAN接続はLANポート1のみ使用可能です。
- ダイレクト接続はシリアルポートBのみ使用可能です。
- コンソールレスで本装置を遠隔操作するためには、設定情報を格納したフロッピーディスクが必要になります。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意しておいてください。
- BIOS SETUPを通常の終了方法以外の手段(電源OFFやリセット)で終了するとリダイレクションが正常にできない場合があります。設定ファイルで再度設定を行ってください。

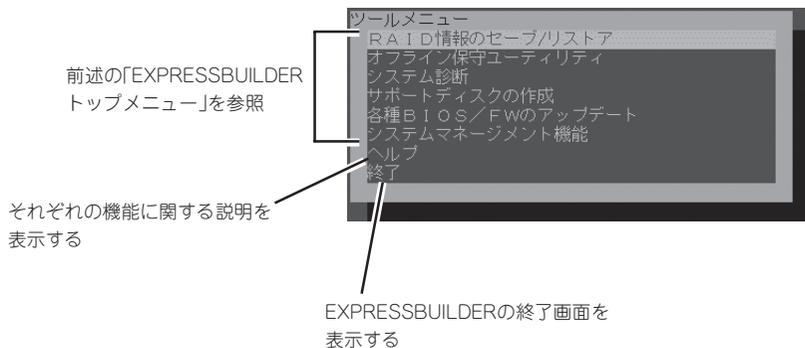


BIOS設定情報は以下の値にセットされます。

- | | |
|--------------------------|----------------|
| — LAN Controller: | [Enabled] |
| — Serial Port B: | [Enable] |
| Base I/O address: | [2F8] |
| Interrupt: | [IRQ3] |
| — BIOS Redirection Port: | [SerialPort B] |
| — Baud Rate: | [19.2k] |
| — Flow Control: | [CTS/RTS] |
| — Console Type: | [PC ANSI] |

ツールメニュー

メインメニューでツールを選択すると以下のメニューが表示されます。
ツールメニューにある項目は、「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツールメニュー」の項目の中からコンソールレスで使用できるもののみがあげられています。それぞれの機能については、前述の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

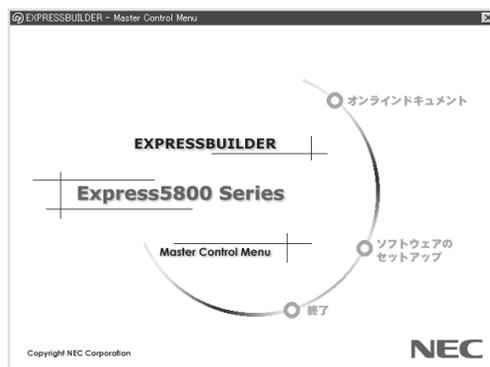


「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツールメニュー」にある機能と比較すると次の点が異なります。

「システム診断」の内容や操作方法(詳しくは、195ページを参照してください)

マスターコントロールメニュー

Windows (Windows 95以降、またはWindows NT 4.0以降)が動作しているコンピュータ上で「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットするとメニューが表示されます。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。



システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

<CD-ROMのドライブレータ>:>¥MC¥1ST.EXE (32bit Windowsの場合)

<CD-ROMのドライブレータ>:>¥MC¥1ST_X64.EXE (64bit Windowsの場合)

マスターコントロールメニューからは、オンラインドキュメントの参照や各種ソフトウェアのインストールなどができます。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Readerがインストールされていないときは、はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Readerをインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるショートカットメニューを使用してください。また、メニューが動作しているシステムやログオンしたときの権限によっては、項目の一部がグレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行するようにしてください。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

Express本体用バンドルソフトウェア

CPUブレードにバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

Adaptec Storage Manager™

Adaptec Storage Manager™(以下ASMと略記します)はAdaptecのSCSIコントローラを利用したディスクアレイシステム(HostRAID™)の監視・管理を行うアプリケーションです。ASMを使用することで、システム運用中のHostRAIDの保守やイベント監視による通報*を行うことができます。

ASMのインストールおよび操作方法については、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Managerユーザーズガイド」を参照してください。この説明書には運用にあたって注意すべきことも掲載しています。運用開始前に必ずお読みください。

* アレイの状態監視はアラート通報で行います(管理PCでのGUIによる監視はサポートしていません)。



CPUブレード1枚あたりのハードディスクドライブ最大接続台数は2台です。スペアドライブを設定することはできません。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にASMがあらかじめインストールされている場合があります。この場合、この他に管理PC側のInternet Explorerの設定や通報監視についての設定などが必要な場合があります。「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Managerユーザーズガイド」の付録を参照し、設定を行ってください。

SystemGlobe DeploymentManager Liteを使った セットアップ

SystemGlobe DeploymentManager Liteを使用してインストールを行う場合は、次の手順でイメージの作成を行ってからシナリオファイルを作成してください。

1. SystemGlobe DeploymentManager Liteがインストール済みで、初回起動時のネットワーク設定が完了しているシステム環境において、「EXPRESSBUILDER」のマスターコントロールメニューから、「ソフトウェアのセットアップ」を選択し、「Adaptec Storage Manager」をクリックする。
メニューが表示されます。
2. 「DeploymentManagerにASMモジュールを登録」を選択し、[次へ]をクリックする。
モジュールのコピーが開始されます。モジュールのコピーの終了後、「ファイルのコピーが終了しました」と終了確認のポップアップが表示されます。
3. [OK]をクリックして閉じる。

以上でイメージの作成は完了です。SystemGlobe DeploymentManager Liteでインストールを行う際には、シナリオファイルの作成時にアプリケーションタブから「ASM」を選択してインストールを進めてください。

詳細については、「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内にある「SystemGlobe DeploymentManager Liteユーザズガイド」を参照してください。この他に通報監視についての設定などが必要な場合があります。「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager ユーザズガイド」の付録を参照して設定を行ってください。

手動インストール(新規インストール)

ターミナルサービスを使用した場合やCD-ROM、CRT、キーボード、マウスをCPUブレードに接続した場合で、手動でASMをインストールする場合は「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Managerユーザズガイド」を参照してください。この他に、電源制御抑止ドライバのインストールと通報監視についての設定などが必要な場合があります。「Adaptec Storage Managerユーザズガイド」の付録を参照して設定を行ってください。

ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentは本装置にインストールするサーバ監視用アプリケーションです。「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。



- ESMPRO/ServerAgentの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgentインストールレーションガイド」を参照してください。
- ブレード収納ユニットのIDは0-Fと筐体IDスイッチ（ロータリスイッチ）に書かれていますが、ESMPROでの表記は1-16になります（筐体IDスイッチを「0」に設定すると、ESMPROでの表記は「1」に、筐体IDスイッチを「A」に設定すると、ESMPROでの表記は「11」になります）。

SystemGlobe DeploymentManager Liteを使ったインストール

SystemGlobe DeploymentManager Liteに添付のドキュメント「SystemGlobe DeploymentManager Liteユーザズガイド」および「ESMPRO/ServerAgentインストールレーションガイド」を参照してください。



SystemGlobe DeploymentManager LiteからESMPRO/ServerAgentをインストールする場合は、必ずSNMPサービスもインストールするようにしてください。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールする場合の方法について簡単に説明します。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはWindowsのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

● ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

● SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

Express5800シリーズにインストールしたOSが起動した後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]—[ESMPRO]—[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。



重要 アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。

ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。



ヒント アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。



インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgentをインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. Express5800シリーズ本体を再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。
エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからインストールし直してください。

注意事項

ESMPRO/ServerAgentを使う場合には、「ESMPRO/ServerAgent インストールガイド」に記載されている補足事項に加えて、以下の点に注意してください。

筐体センサの通報について

Express5800/BladeServerの場合、筐体センサで障害が発生した際には、ブレード収納ユニット内のすべてのブレードサーバから通報が行われます。
個々のブレードサーバからの筐体センサ異常通報を抑止する方法は以下のとおりです。

- **ESMPRO/ServerAgentのプロパティから行う場合**

[ブレードサーバ]タブを選択し、[通報する]のチェックをはずす。

- **ESMPRO/ServerManagerのオペレーションウィンドウから行う場合**

オペレーションウィンドウにて、該当ブレードサーバアイコン、もしくはブレードアイコンを右クリックし、メニューから[ブレード筐体センサ通報設定]を選択する。

[ブレード筐体センサ通報設定]ダイアログボックスが表示されるので、通報を抑止するブレードサーバのチェックをはずす。

- **ESMPRO/ServerManager Webコンポーネントから行う場合**

通報を抑止するブレードサーバの[Agentコントロールパネル]を起動する。[ブレードサーバ]タブを選択し、[通報する]のチェックをはずす。

- 電源監視について

電源監視については、以下のように動作します。

- 電源ユニットの状態について

ESMPRO/ServerManagerのデータビューアの[ESMPRO] - [システム環境] - [電源]の[個別状態]は一つしか表示されませんが、個別状態は実装されている電源ユニットの状態を全て反映しています。

- 電源ユニットの障害が発生した場合

常に「電源モジュール1」または、「電源ユニット1」にて発生したと通報します。障害の発生した電源を特定するには、電源ユニットのランプを確認してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールで保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にエクスプレス通報サービスがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっております。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後は「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内にあるオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストールガイド」を参照して設定してください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみのお済みでない場合、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
2. [全般]タブの[通報の設定]をクリックする。
アラートマネージャ設定ツールが起動します。
3. [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。
[エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。
エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ 18.0MB以上
- ハードディスクドライブの空き容量 30.0MB以上
- メールサーバ
電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

ソフトウェア

- 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のESMPRO/ServerAgent
 - 上記、ESMPRO/ServerAgentがサポートするOS
 - マネージャ経由の通報を使用する場合は、マネージャ側に以下の環境が必要です。
ESMPRO/ServerManager* + ESMPRO/AlertManager Ver.3.4以降
- * 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのバージョン以上を使用してください。
- (例) 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのバージョン3.8の場合、バージョンが3.8以上のESMPRO/ServerManagerが必要です。

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

管理PC用バンドルソフトウェア

CPUブレードをネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

SystemGlobe DeploymentManager Lite

SystemGlobe DeploymentManager Liteがインストールされている管理PCからネットワーク上に接続されているブレードサーバに対して、BIOSのアップデートやOSのクリアインストールなどの導入・管理が可能です。

SystemGlobe DeploymentManager Liteのインストール

SystemGlobe DeploymentManager Liteは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って管理PCにインストールします。

1. Windowsを起動する。
2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

AutoRun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

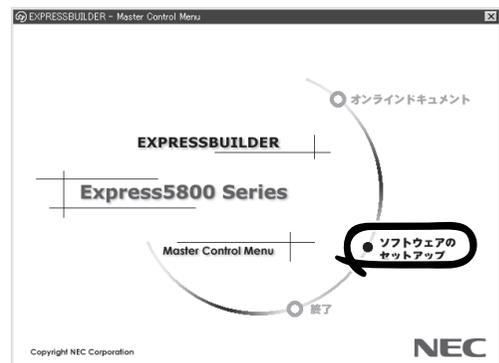
3. [ソフトウェアのセットアップ] – [DeploymentManager Liteのセットアップ]をクリックする。



右図の画面上で右クリックしてもポップアップメニューが表示されます。

SystemGlobe DeploymentManager Liteのインストーラが起動します。

4. インストーラの指示に従ってインストールを完了させる。



SystemGlobe DeploymentManager Liteの機能

SystemGlobe DeploymentManager Liteは、以下の機能を実現しています。

● BIOS/ファームウェアのアップデート

BIOSやファームウェアのアップデートのFDイメージをネットワークを介して配信することができます。フロッピーディスクサイズ(1.44MB)までのものに限りませんが、自作したFD単体として起動できるように作成したツールをSystemGlobe DeploymentManager Liteを使用して配信・実行することもできます。

● OSクリアインストール

Windows系OSに加え、Linuxをリモートでネットワーク上のコンピュータにインストールすることが可能です。また、Windowsのインストールでは、コンピュータ毎のOS設定(ホスト名など)は、あらかじめパラメータファイルを作成しておくことで自動セットアップが可能です。



- Windows Server 2003 x64 Editionsは、サポート対象外です。
- OSクリアインストールでは、以下のOSのインストールをサポートしています。
 - Windows Server 2003 Standard Edition、Windows Server 2003 Enterprise Edition、Windows 2000 Server
 - Red Hat Linux (詳細はSystemGlobe DeploymentManager Liteユーザーズガイドをご覧ください。)

● SP/Hotfixの適用

Windows系OSのサービスパックやHotfixをリモートでインストールできます。この機能は、OSクリアインストールと同時に設定する必要があります。

● AutoRaid

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに添付されているAutoRaidツールをSystemGlobe DeploymentManager Liteで使用することができます。リモートによるRAIDコンフィグレーションを行うことができます。

● システムアップデート

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに添付されているシステムのアップデートツールをSystemGlobe DeploymentManager Liteで使用することができます。

● シナリオ機能

BIOSアップデートやOSクリアインストールなどの機能を使用するとき、シナリオという単位に各機能を設定して実行します。簡単な操作でそれぞれの機能を自由に設定ことができ、一度作成したシナリオは何度でも使用することができます。また、オプション設定も可能で、要求に応じて柔軟に対応できるシナリオを作成できるようになっています。

● シナリオ実行セキュリティ

管理者が、誤操作や第三者の不用意な操作によるPCの破壊を未然に防ぐため、パスワードやメッセージによりシナリオ実行やシナリオ中断などをガードします。様々な項目で、なし、警告、パスワードの3種類のガードが選択可能で、それぞれの項目で用途に合わせて設定できます。



機能の詳細や実行方法は、SystemGlobe DeploymentManager Liteユーザーズガイドをご覧ください。ユーザーズガイドは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMの以下の場所のファイルです。

CD-ROMドライブ¥DPML¥MANUAL¥users_guide.pdf

DeploymentManager(製品版)との機能差分

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMには、SystemGlobe DeploymentManager Liteが添付されていますが、製品版として、DeploymentManager があります。

DeploymentManagerには、Lite版にはないバックアップなどの保守の機能に加え、各種機能が強化されています。

以下にその詳細を示します。

機 能	製品版	Lite版
BIOS/ファームウェアのアップデート	○	○
OSクリアインストール	○	○
SP/Hotfixの適用	○	○*1
アプリケーションのインストール	○	○*2
リモートアップデート	○	×
バックアップ/リストア	○	×
ディスク複製インストール	○	×
AutoRaid	○	○
システムアップデート	○	○*1
PULL型シナリオ実行	○	×
シナリオスケジュール管理	○	×
電源ON/OFFスケジュール管理	○	×

○: サポート ×: 未サポート

(注意)

- *1 SystemGlobe DeploymentManager Liteでは、単独でのSP/Hotfixの適用はできません。OSクリアインストールと同時に実行する必要があります。
- *2 SystemGlobe DeploymentManager Liteでは、OSクリアインストールと同時に設定した時のみ「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに含まれる以下のアプリケーションのインストールが可能です。
 - － ESMPRO/ServerAgent
 - － エクスプレス通報サービス
 - － Adaptec Storage Manager™(ASM)
- *3 単独でシステムのアップデートを行うことはできません。OSクリアインストールと同時に実行する必要があります。

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたシステムをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、本体にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

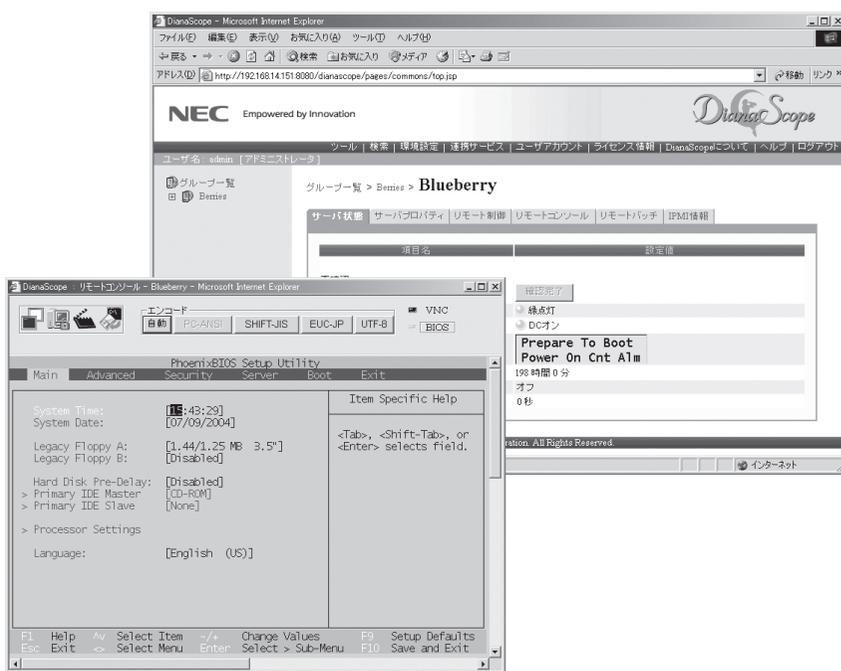
管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストールガイド」を参照してください。

DianaScope

DianaScopeはExpress5800シリーズをリモート管理するためのソフトウェアです。DianaScopeの機能やインストール方法についての詳細はオンラインドキュメントを参照してください。



本製品においてDianaScopeを使用するためにはオプションのサーバライセンス(UL1198-001またはUL1198-011)が必要です。

本製品には以下のサーバライセンスが添付されています。

- UL1198-001 SystemGlobe DianaScope Additional Server License(1)
本製品を1台管理するためのライセンス

ディスクアレイソフトウェア

本製品はハードディスクドライブをディスクアレイとして制御することができます。
ディスクアレイコントローラに接続されたハードディスクドライブの状態の監視・管理に使用するソフトウェアについて紹介します

本体標準装備

Adaptec Storage Manager™(ASM)

Adaptec Storage Manager(ASM)は本体標準のSCSIコントローラを使用したHostRAIDでRAID構築をしたり、監視・管理するためのアプリケーションです。詳細については、前述の「Express本体用バンドルソフトウェア」にある「Adaptec Storage Manager™」を参照してください。